

姓名を姓と名に分ける

相原	雅紀
苗字	名前

図にするまでもありませんが、姓名は、左側が姓、右側が名というつくりになっています。

ということは、姓名を左端から抜き出せば、姓だけになります。

= LEFT (文字列 , 文字数)

左端から抜き出してね 「氏名」のセルから 苗字の文字数分

そんな、文字を左端から抜き出したい時に使うのが、LEFT 関数。

上記のように数式を組み立てればいいのですが、ここで問題が浮上します！

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀			
3	大野田 智			
4	寛 利代			
5	菅野 美穂子			

姓の文字数は、人によってそれぞれなので、

= LEFT (文字列 , 文字数)

左端から抜き出してね 「氏名」のセルから 苗字の文字数分

人によって文字数が違う！

何文字分抜き出せばいいのかという [文字数] の指定を、1文字分を意味する「1」や、2文字分を意味する「2」のよう

に、常に同じ文字数を抜き出す設定にはできません。

ということは、その人ごとに、姓の文字数を、何文字なのか数える必要がある、ということです！

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀			
3	大野田 智			
4	笥 利代			
5	菅野 美穂子			

ここで、Excel さんの気持ちになってみます。

日本人なら、姓にはどんなものがあるのかを経験として知っているのので、表をパッと見れば、どれが姓なのかを瞬間的に判断できます。

ところがExcel さんは人間ではないので、姓には



どんなものがあるのかなんて、知るわけがありません。

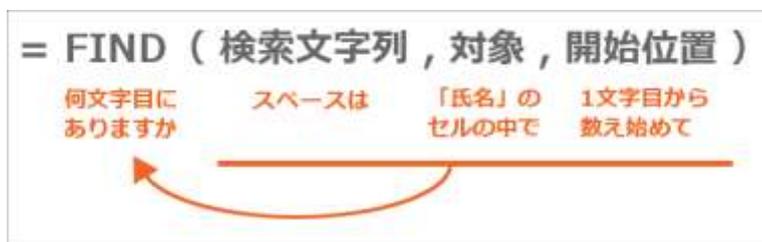
そこで、Excel さんにも分かるよう、姓を機械的に判別できる工夫が必要です。

そこで注目するのが「スペース」。

今回の例では、姓と名の間にスペースが入力されている、というのが、

それぞれの姓名に共通していることです。

ということは、そのスペースが先頭から何文字目にあるのかが分かれば、おのずと姓の文字数が分かります。

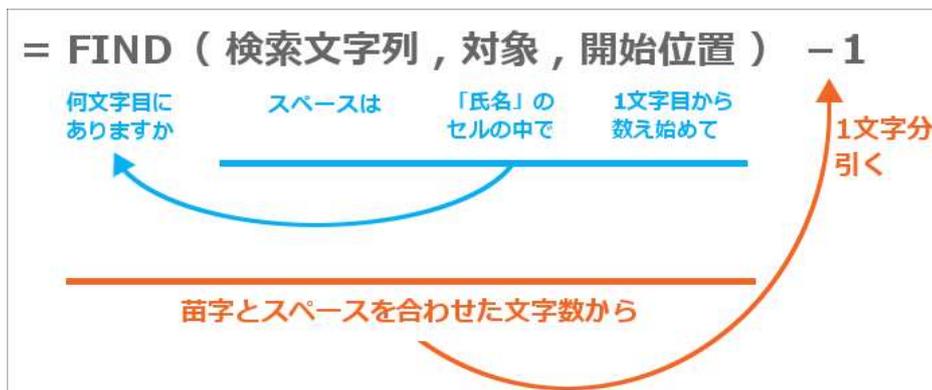


そんな、指定した文字が何文字目にあるのかを調べてくれるのが、FIND 関数。左記のように数式を組み立てることになります。

ところが、FIND 関数で求められるのは、スペースが何文字目にあるのか、ということ。

そしてその答えの数は、姓とスペースを合わせた文字数と同じでもあります。

ということは、姓だけの文字数は、その姓とスペースを合わせた文字数から、スペース分の1文字を更に引けばいいので、



上記のような数式を組み立てることになります。

	A	B	C
1	氏名	姓	名
2	相原 雅紀		
3	大野田 智		
4	笥 利代		
5	菅野 美穂子		

ここまでで、姓名から姓を取り出すイメージがつかめました。

それではB2番地に、A2番地の姓名から姓の部分だけを抜き出して表示させる数式を仕上げていくことにしましょう。

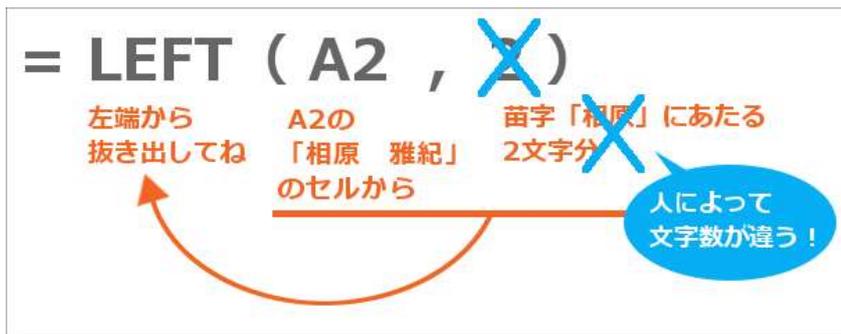


姓は、**姓名の左端から抜き出せばいい**ので、使うのはLEFT関数でした。

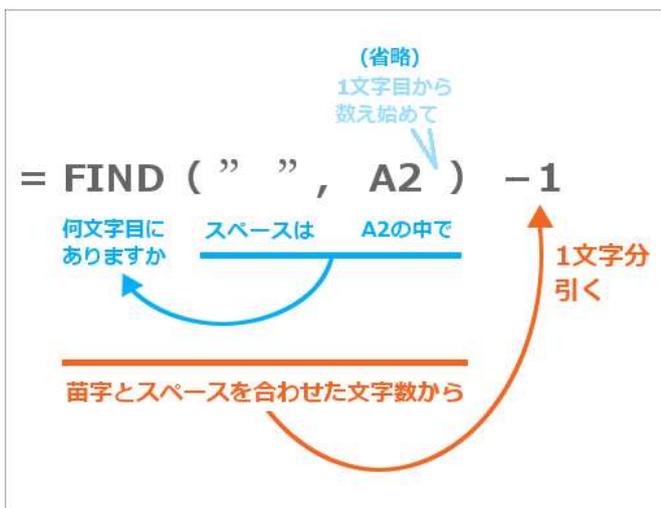


それを、A2番地の姓名から姓の部分だけを抜き出す処理に当てはめると、こうなります。

ところが、他の姓名のセルから姓だけを抜き出すことも考えたとき、何文字分抜き出すかは人によっ



て違うので、



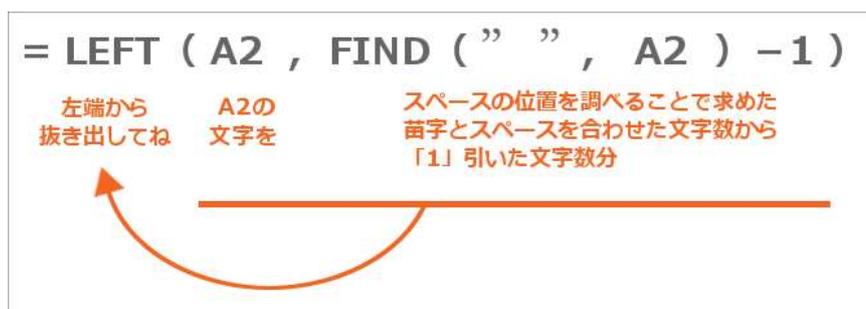
その文字数を求める必要があります。

FIND 関数でスペースの位置を調べると、その答えの数は、姓とスペースを合わせた文字数と同じでもあるので、そこから更にスペース分の「1」を引いたものが、抜き出す文字数となります。ちなみに、図の一番上にあるように、FIND 関数の最後の引数「何文字から数え始めて」の部分は、

省略すると「1文字目から数え始めて」という意味になります。

ちょうど今回は、姓名の1文字目から数え始めたいので、せっかくですから省略しました。

そしてこの、人によって違う姓の文字数を求めた数式を、LEFT 関数の×印の部分に当てはめると、



となります！

というわけで、この数式を答えを表示させたいB2番地を選択し、

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀			
3	大野田 智			
4	笥 利代			
5	菅野 美穂子			

```
=LEFT(A2,FIND(" ",A2)-1)
```

と、手入力しても構いませんし、「関数の中に関数！関数の入れ子」でご紹介しているように、ダイアログボックスを使って数式を入力したい場合には、次の章のように操作します。

= LEFT (A2 , FIND (" " , A2) - 1)

左端から
抜き出してね



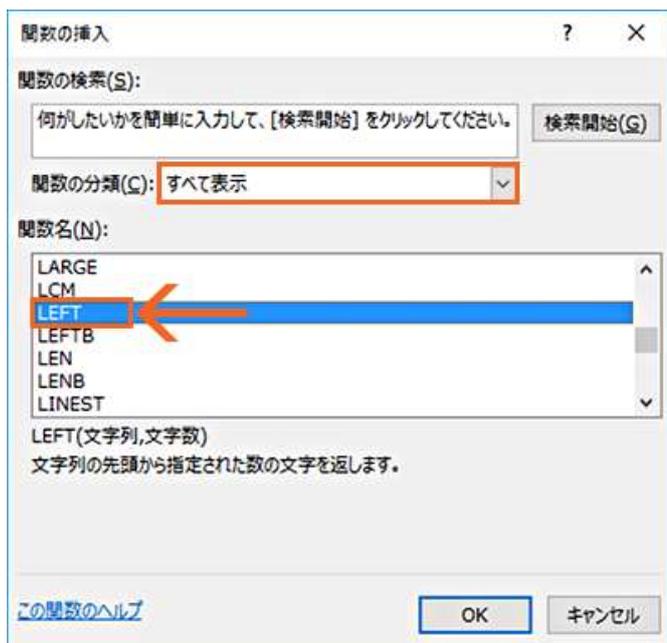
A2の
文字を

スペースの位置を調べることで求めた
苗字とスペースを合わせた文字数から
「1」引いた文字数分

それでは、ここまでまとめた数式を、ダイアログボックスを使って入力してみることにしましょう！

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀			
3	大野田 智			
4	笥 利代			
5	菅野 美穂子			

答えを表示させたいB2番地を選択し、「関数の挿入」ボタンをクリックします。



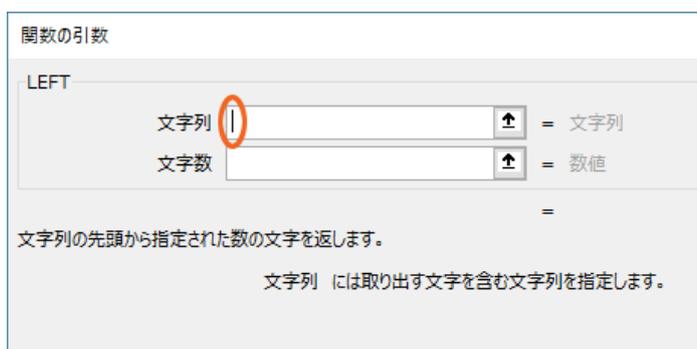
関数を指定するためのダイアログボックスが表示されます。

この時、LEFT 関数を選ぶべきなのか、FIND 関数を選ぶべきなのか悩んだりしますが、ポイントは「**結果として表示させたい関数を先に選ぶ**」です。

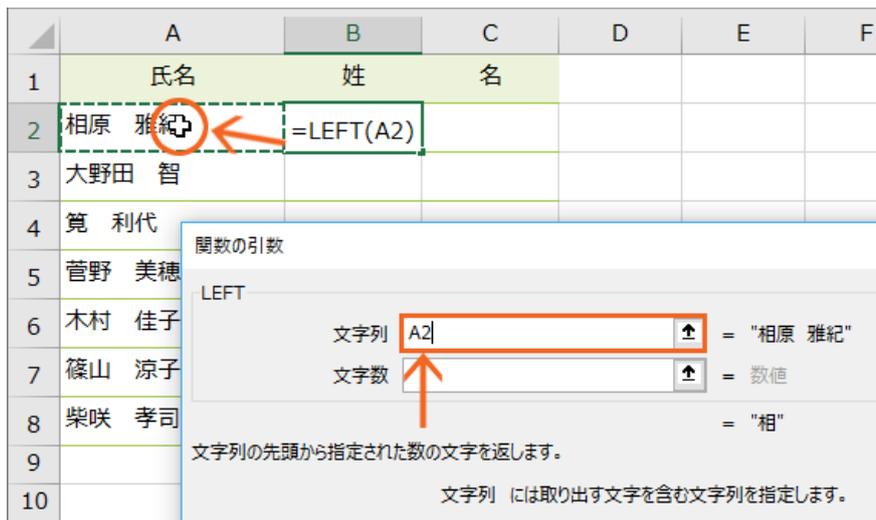
答えとして表示させたいのは、姓名を左端から抜き出したものなので、左端から抜き出す LEFT 関数を選びます。

[関数の分類] で「すべて表示」を選択し、[関数名] 欄で「LEFT」を選択。

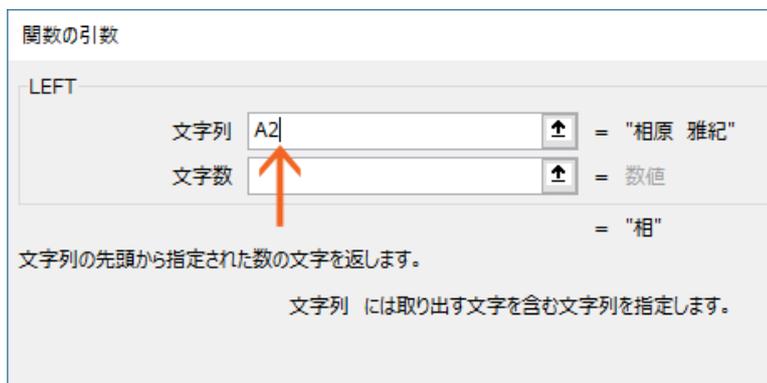
[OK] ボタンをクリックします。



まず [文字列] 欄には、どのセルから文字を抜き出したいのか、そのセルを指定します。今回は、A2 番地から文字を抜き出したいわけですから、[文字列] 欄に文字カーソルがある状態で、

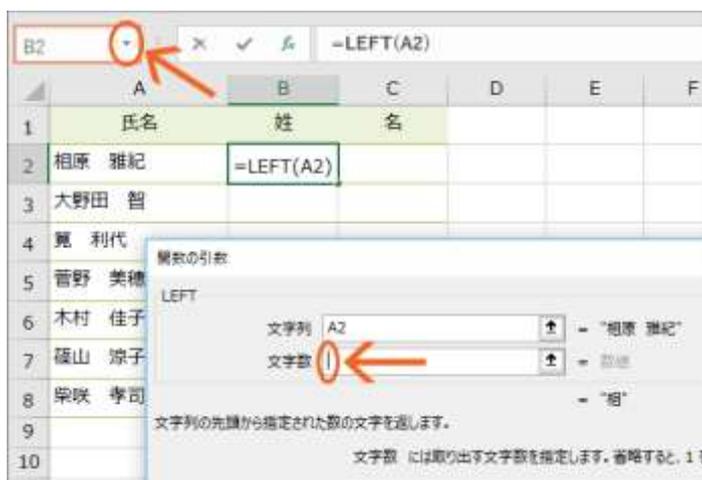


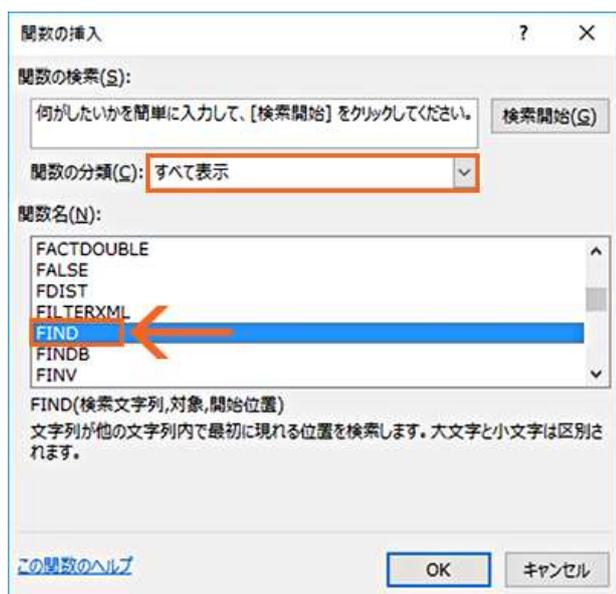
A2 番地をクリックすると、[文字列] 欄に「A2」と指定することができました！



[文字列] 欄の指定が終わったので、次の欄の指定に入ります。

[文字列] 欄に文字カーソルがある状態で、キーボードの [Tab] キーをポンッと押すと、

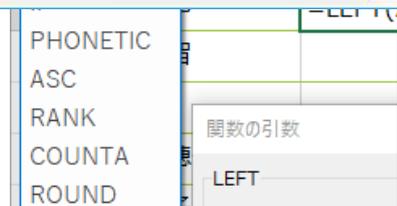




次の「文字数」欄に文字カーソルを移すことができました！

この欄には、前の「文字列」欄で指定したセルの文字を、左端から何文字分抜き出したいのか、その文字数を指定します。

でも、その文字数は、人によって違うので、スペースが何文字目にあるのかを調べれば、おのずと姓の文字数が分かります。



スペースが何文字目にあるのかを調べるために使うのが、FIND 関数。というわけで、LEFT 関数の引数「文字数」の中に、FIND 関数を入れていきます。

LEFT 関数の引数「文字数」欄に文字カーソルがあることを確認したら、数式バーの左端にある「▼」をクリックすると、

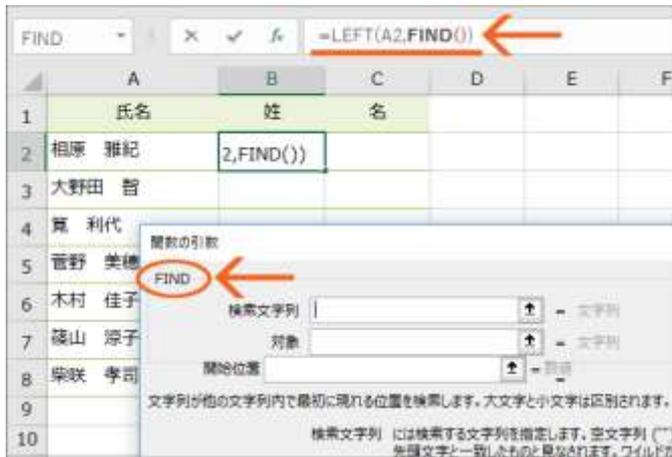
最近使った関数が一覧表示されます。

この一覧の中に「FIND」があれば、クリックで選択します。

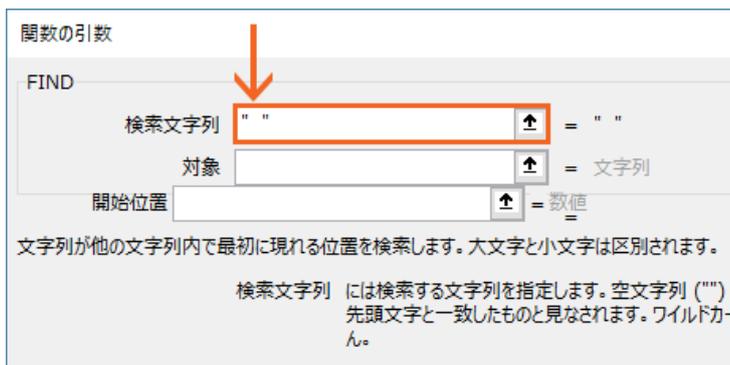
(この一覧の中に「FIND」があった方は次の図の、関数を選択するダイアログボックスから FIND 関数を選択する操作は不要なので、次の次の図から操作を続けてください。)

もし、一覧の中に「FIND」がない場合には、単純に最近使っていないというだけなので、一覧の一番下にある「その他の関数」をクリックで選択すると、

関数を選択するダイアログボックスが表示されるので、この一覧から「FIND」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



先ほどまで LEFT 関数のものだったダイアログボックスが、FIND 関数のものになり、数式バーに表示されている数式も、LEFT 関数の中に FIND 関数が入っていることが分かります。



それでは FIND 関数の設定を行っていきましょう。

[検索文字列] には、どの文字を探したいのかを指定します。

今回は「スペース」が何文字目にあるのかを知りたいので、スペースを入力します。

この時、探したい文字が全角のスペースなら全角で、半角のスペースなら半角で、スペースを入力します。

人間の目には全角の文字も半角の文字も似たように見えますが、Excel さんにとっては全角と半角の文字はまったく違う文字だからです。

今回は全角スペースを探したいので、全角スペースを入力します。

そしてもちろん、Excel では「**数式内で「文字」を指定するときには、その前後をダブルクォーテーションで囲む**」がお約束です。

スペースも「空白という文字」ですから、スペースの前後をダブルクォーテーションで囲みます。

しかも、数式内で使う記号は半角というのもお約束なので、**ダブルクォーテーションは半角**で入力します。

[検索文字列] の欄の指定が終わったので、次の欄の指定に入ります。

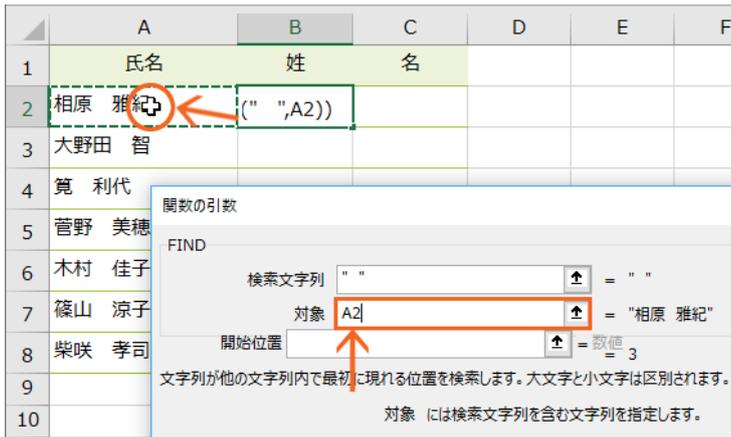
[検索文字列] の欄に文字カーソルがある状態で、キーボードの [Tab] キーをポンッと押すと、

次の [対象] 欄に文字カーソルを移すことができました！

この [対象] 欄には、どのセルの中で文字を探せばいいのかを指定します。

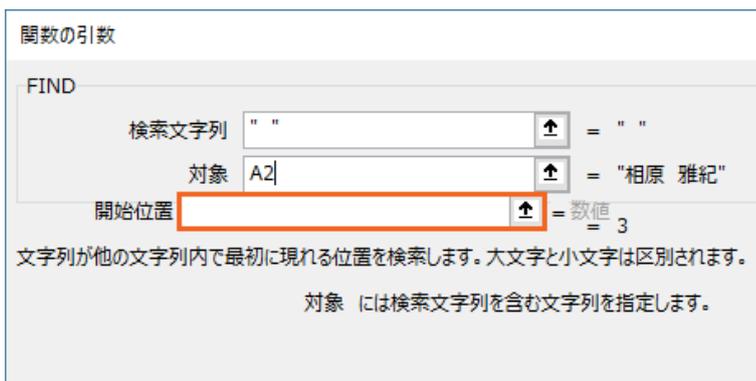
今回は、A2 番地の中でスペースを探したいわけですから、A2 番地を指定します。

[対象] 欄に文字カーソルがある状態で、

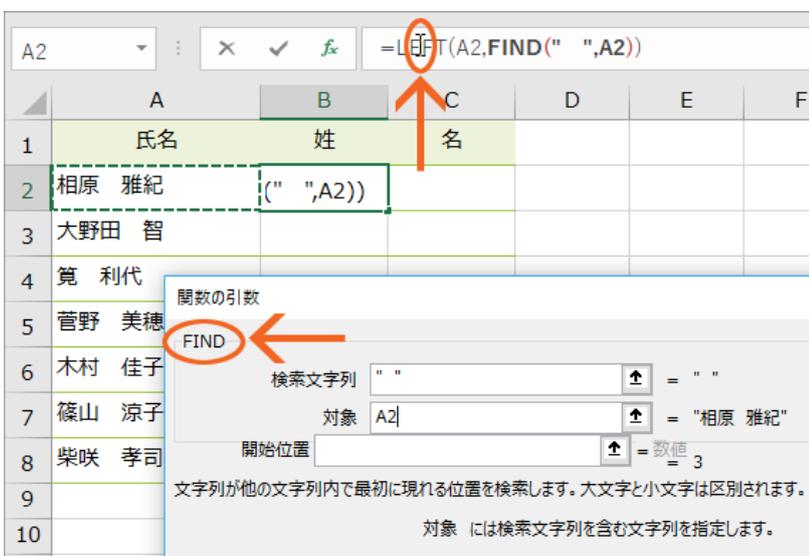


A2 番地をクリックすると、[対象] 欄に「A2」と指定することができました！

[対象] 欄の指定が終わったので、次の欄の指定に入ります。



でも、最後の [開始位置] 欄には、前の [対象] で指定したセルの中で、何文字目から探せばいいのかを指定するのですが、**省略すると1文字目から探してくれる**ので、今回は省略します。



さあ、これで、FIND 関数の設定は終わったのですが、最初の LEFT 関数の設定が全部終わったのか確認したいところ。

でも、今のダイアログボックスは FIND 関数のものなので、このダイアログボックスを LEFT 関数のものに切り替えましょう！

数式バーに表示されている数式で、「LEFT」の文字の部分をクリックすると、



ダイアログボックスが FIND 関数のものから LEFT 関数のものに切り替わりました！

ここで引数 [文字数] に注目！

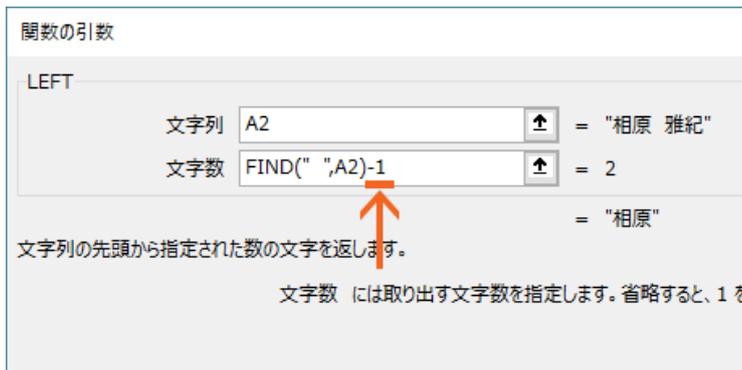
現在の設定では、FIND 関数で、スペースが何文字目にあるのかを調べているだけなので、その答えの数は、姓とスペースを合わせた文字数と同じでもあります。

で、その答えの数は、姓とスペースを合わせた文字数と同じでもあります。



姓だけの文字数にするには、ここから、スペースの 1 文字分を引かなければいけないので、[文字数] 欄の一番後ろでクリックして、FIND 関数の数式の後ろに文字カーソルを入れ、

「-1」と入力します。



これで、すべての引数の設定が終わったので、ダイアログボックス右下の [OK] ボタンをクリックします。

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原		
3	大野田 智			
4	笈 利代			
5	菅野 美穂子			
6	木村 佳子			

姓名から姓だけを取り出すことができました！

	A	B	C	D	E
1	氏名	姓	名		
2	相原 雅紀	相原			
3	大野田 智				
4	笈 利代				
5	菅野 美穂子				

手入力にしる、ダイアログボックスを使う方法にしる、数式を入力した B2 番地を**選択**すると、数式バーにその数式の内容が表示されます。

= LEFT (A2 , FIND (" " , A2) - 1)

左端から
抜き出してね

A2の
文字を

スペースの位置を調べることで求めた
苗字とスペースを合わせた文字数から
「1」引いた文字数分

最初に考えをまとめたとおりに数式が入力できたことが分かります。

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原		
3	大野田 智			
4	笈 利代			
5	菅野 美穂子			

先頭のセルに数式を入力できたので、残りのセルにも数式を入力しましょう。

数式が入力されている B2 番地を選択した状態でオートフィルすれば、

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原		
3	大野田 智	大野田		
4	箕 利代	箕		
5	菅野 美穂子	菅野		
6	木村 佳子	木村		
7	篠山 涼子	篠山		
8	柴咲 孝司郎	柴咲		

残りのセルにも簡単に数式を入力することができました！

姓名から姓だけを取り出せたので、今度は、姓名から名だけを取り出してみることしましょう。

C2 番地に、A2 番地の姓名から名の部分だけを取り出して表示させたいと思います。

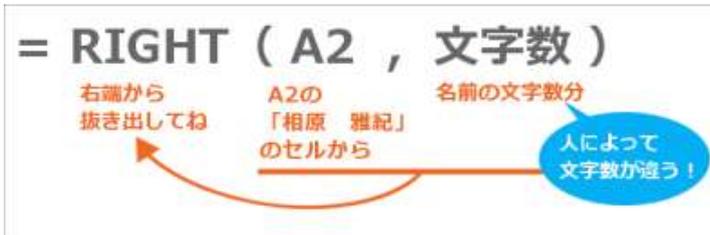
相原	雅紀
苗字	名前

姓名は、左側が姓、右側が名というつくりになっています。

ということは、姓名を右端から抜き出せば、名だけになります。

= RIGHT (文字列 , 文字数)	
右端から 抜き出してね	「氏名」のセルから 名前の文字数分

そんな、文字を右端から抜き出したい時に使うのが、RIGHT 関数。

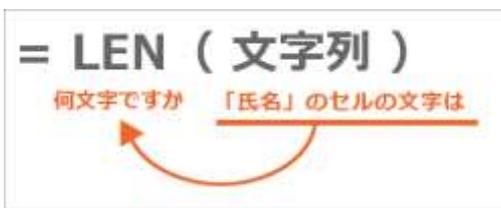


今回はA2番地の姓名を、右端から抜き出したいので、このような数式になりますが、やはり姓の時と同様、名は人によって文字数が違うので、その名が何文字なのかを、まず調べる必要が出てきます。



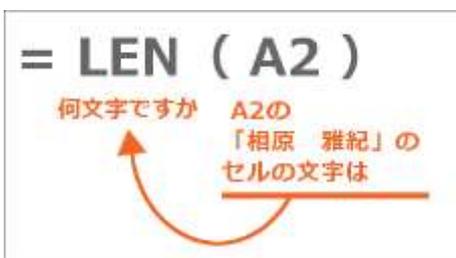
その名の文字数を、いったいどうやって割り出そうかということになりますが、図で考えれば難しくありません。

まずは「姓名」全体の文字数を数えます。



この、「姓名」全体の文字数を数えるときに使うのが、LEN 関数。

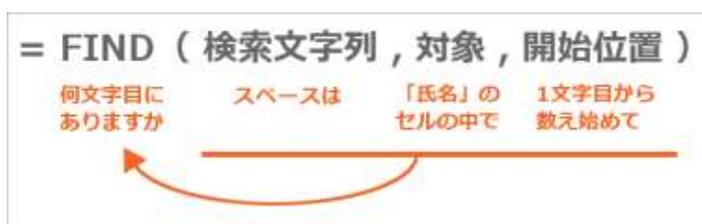
LEN 関数は、指定したセルの中に、全部で何文字入っているのかを数えてくれるので、



このように数式を組み立てれば、姓名が入力されている A2 番地に、全部で何文字入っているのかを数えてくれます。



更に、**姓とスペースを合わせた文字数**も割り出します。



この姓とスペースを合わせた文字数は、スペースが先頭から何文字目にあるのかを求めた数字と同じなので、前の章で姓を取り出したときと同様、FIND 関数を使います。



このように数式を組み立てれば、スペースが先頭から何文字目にあるのかが分かるので、それがイコール、姓とスペースを合わせた文字数となります。

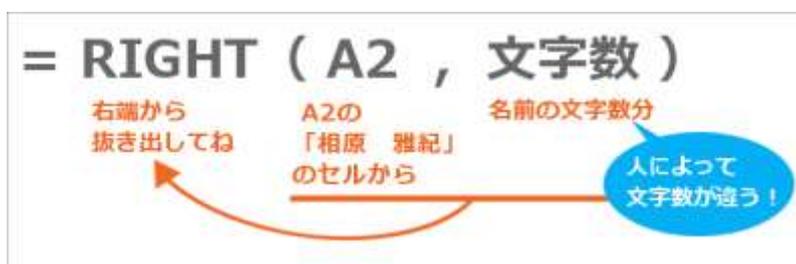


そして、LEN 関数で求めた「姓名」全体の文字数から、FIND 関数で求めた姓とスペースを合わせた文字数を引けば、**名の文字数**が分かるので、

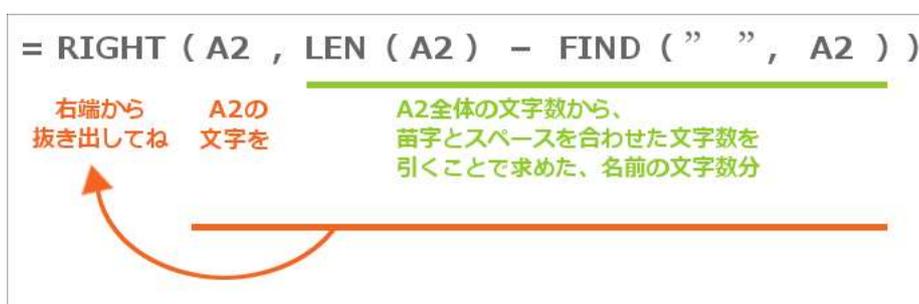


名の文字数は、このような数式で分かることになります。

そして、この名の文字数を求める数式は、



最初にまとめたとおり、姓名を右端から抜き出すために使う RIGHT 関数の、[文字数] 部分に組み込むことになるので、これらをすべて合体させると、



このような数式で、姓名から名を取り出せることになります。

というわけで、この数式を、

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原		
3	大野田 智	大野田		
4	笥 利代	笥		
5	菅野 美穂子	菅野		

答えを表示させたいC2番地を選択し、

```
=RIGHT(A2, LEN(A2)-FIND(" ", A2))
```

と、手入力しても構いませんし、「関数の中に関数！関数の入れ子」でご紹介しているように、ダイアログボックスを使って数式を入力したい場合には、次の章のように操作します。

= RIGHT (A2 , LEN (A2) - FIND (" ", A2))

右端から
抜き出してね

A2の
文字を

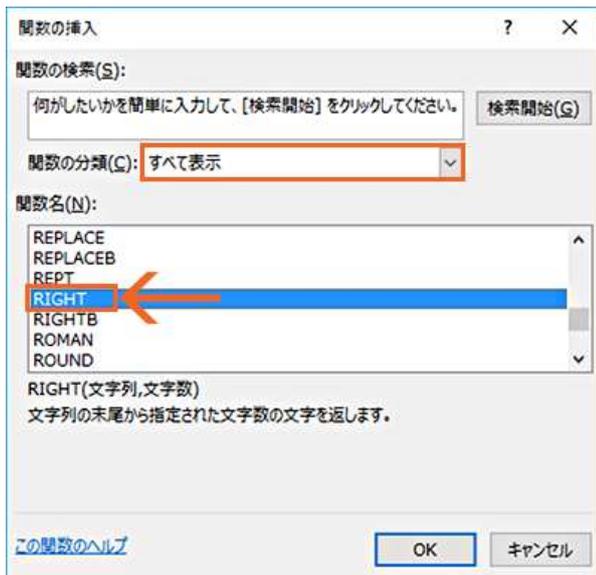
A2全体の文字数から、
苗字とスペースを合わせた文字数を
引くことで求めた、名前の文字数分

それでは、ここまでまとめた数式を、ダイアログボックスを使って入力してみることにしましょう！

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原		
3	大野田 智	大野田		
4	笥 利代	笥		
5	菅野 美穂子	菅野		

Formula bar: C2, [X] [✓] [fx]

答えを表示させたいC2番地を選択し、[関数の挿入] ボタンをクリックします。



関数を指定するためのダイアログボックスが表示されます。

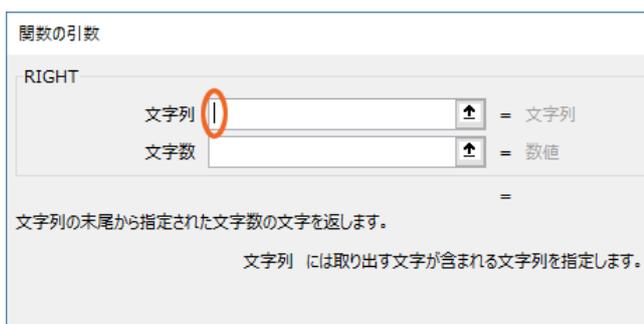
この時、RIGHT 関数を選ぶべきなのか、LEN 関数を選ぶべきなのか、それとも FIND 関数を選ぶべきなのか悩んだりしますが、ポイントは「**結果として表示させたい関数を先に選ぶ**」です。

答えとして表示させたいのは、姓名を右端から抜き出したものなので、右端から抜き出す RIGHT 関数を選びます。

[関数の分類] で「すべて表示」を選択し、[関数名] 欄で「RIGHT」を選択。

[OK] ボタンをクリックします。

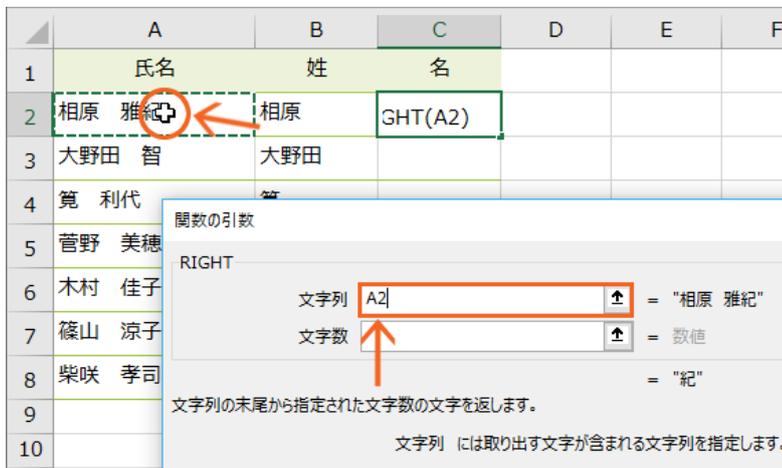
ちなみに、この一覧から「RIGHT」を選択する際、「RIGHT」の頭文字である「R」のところまで、一瞬でスクロールする技を使うと便利です。



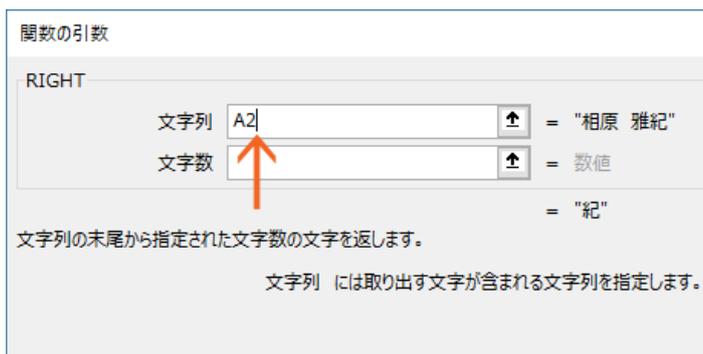
前のダイアログボックスで「RIGHT」を選択して [OK] ボタンをクリックすると、このようなダイアログボックスが表示されるので、RIGHT 関数の設定をしていきましょう。

まず [文字列] 欄には、どのセルから文字を抜き出したいのか、そのセルを指定します。

今回は、A2 番地から文字を抜き出したいわけですから、[文字列] 欄に文字カーソルがある状態で、

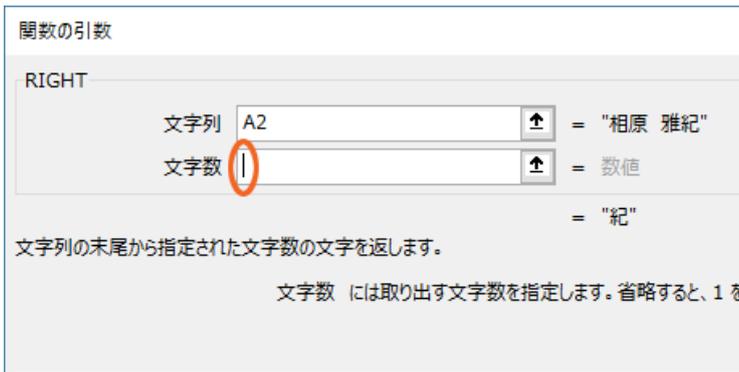


A2 番地をクリックすると、[文字列] 欄に「A2」と指定することができました！



[文字列] 欄の指定が終わったので、次の欄の指定に入ります。

[文字列] 欄に文字カーソルがある状態で、キーボードの [Tab] キーをポンッと押すと、

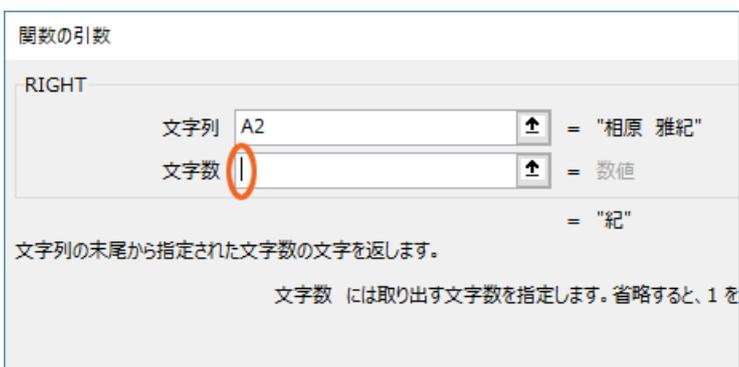


次の [文字数] 欄に文字カーソルを移すことができました！

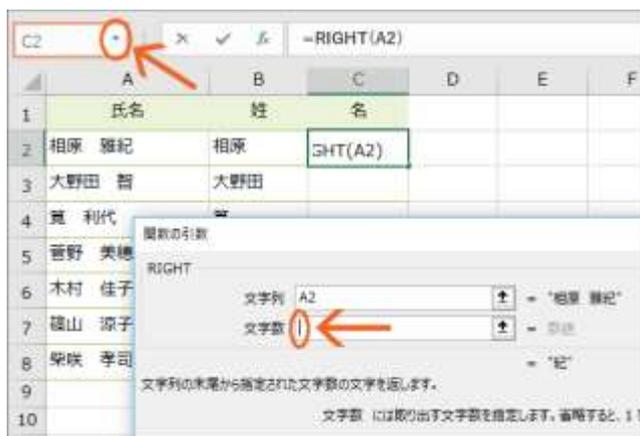
この欄には、前の [文字列] 欄で指定したセルの文字を、右端から何文字分抜き出したいのか、その文字数を指定します。



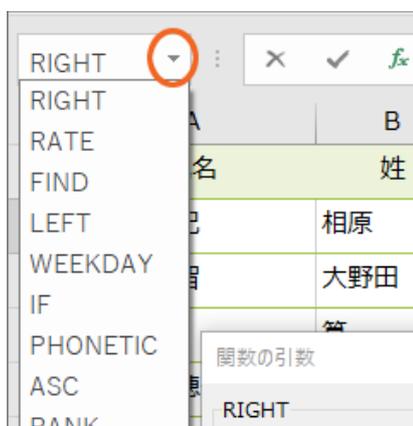
名の文字数は、前の章でまとめたとおり、LEN 関数で求めた「姓名」全体の文字数から、FIND 関数で求めた姓とスペースを合わせた文字数を引いて求めることになるので、



この [文字数] 欄には、まずは LEN 関数を入れていくことになります。



というわけで、RIGHT 関数の引数 [文字数] 欄に文字カーソルがあることを確認したら、数式バーの左端にある [▼] をクリックすると、

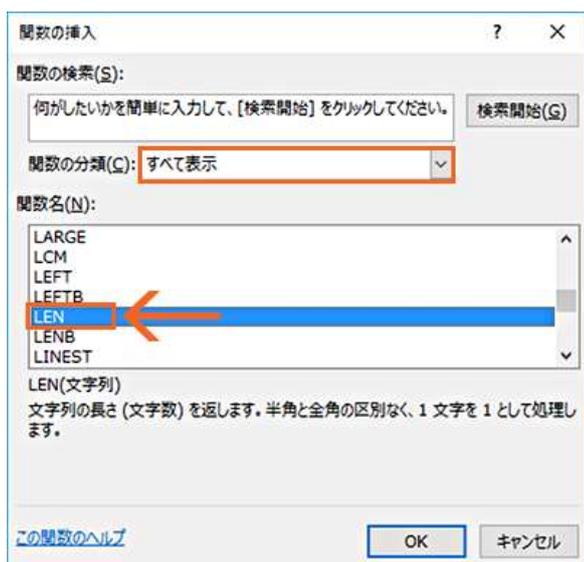


最近使った関数が一覧表示されます。

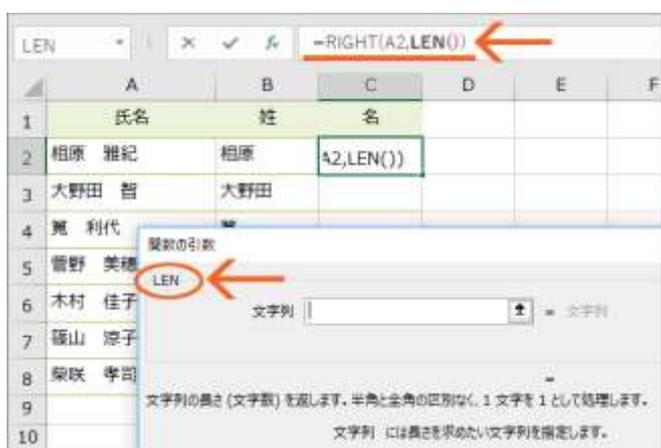
この一覧の中に「LEN」があれば、クリックで選択します。

(この一覧の中に「LEN」があった方は、次の図の、ダイアログボックスから LEN 関数を選択する操作は不要なので、次の次の図から操作を続けてください。

もし、一覧の中に「LEN」がない場合には、単純に最近使っていないというだけなので、一覧の一番下にある「その他の関数」をクリックで選択すると、



関数を選択するダイアログボックスが表示されるので、この一覧から「LEN」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



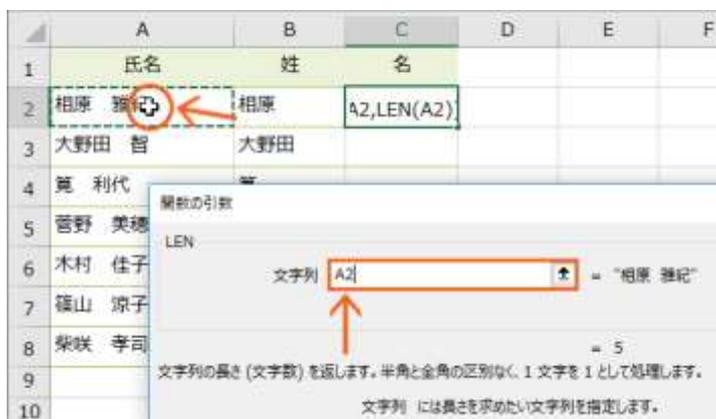
先ほどまで RIGHT 関数のものだったダイアログボックスが、LEN 関数のものになり、数式バーに表示されている数式も、RIGHT 関数の中に LEN 関数が入っていることが分かります。



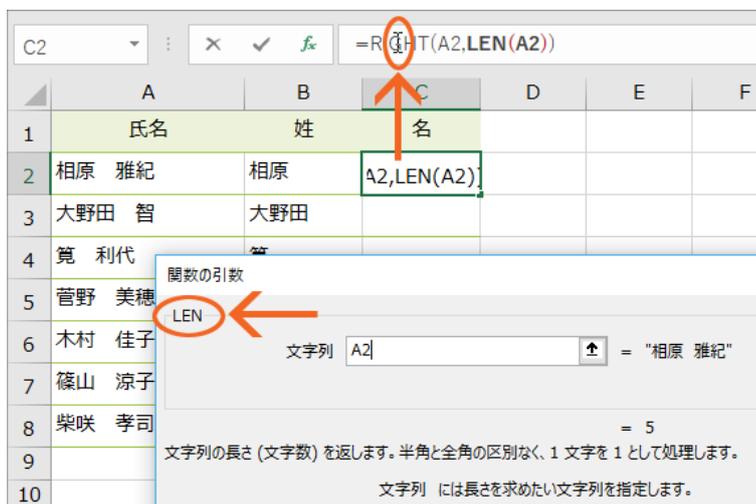
それでは LEN 関数の設定をしていきましょう。

「[文字列]」欄には、どのセルの文字数を数えたいのか、そのセルを指定します。

今回は、A2 番地の文字数を知りたいわけですから、「[文字列]」欄に文字カーソルがある状態で、



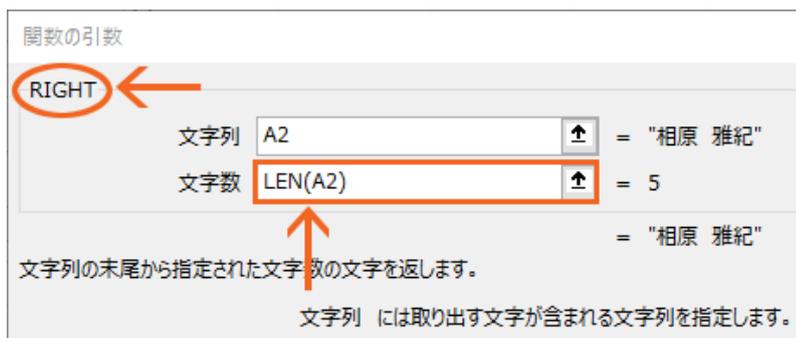
A2 番地をクリックすると、「[文字列]」欄に「A2」と指定することができました！



これで LEN 関数の設定は終わったので、最初の RIGHT 関数のダイアログボックスに戻ることになります。

今のダイアログボックスは LEN 関数のものなので、このダイアログボックスを RIGHT 関数のものに切り替えます。

数式バーに表示されている数式で、「RIGHT」の文字の部分をクリックすると、



ダイアログボックスが LEN 関数のものから RIGHT 関数のものに切り替わりました！

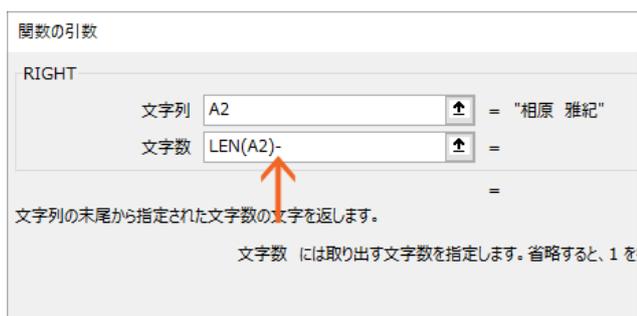
ここで引数 [文字数] に注目！



現時点では、文字数を求める数式の、LEN 関数の部分だけの入力が終わっただけなので、次は「引く」にあたる「-」（マイナス）の入力です。



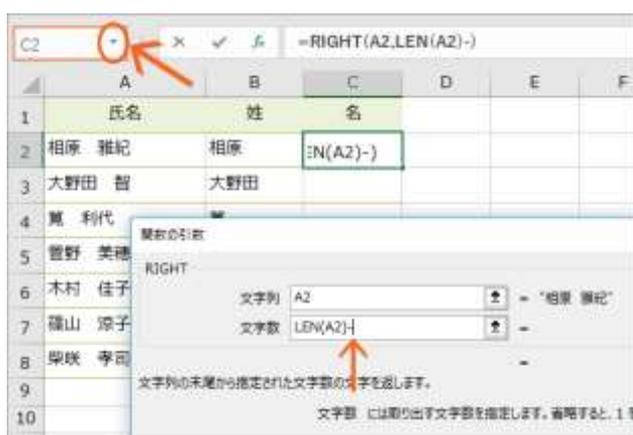
[文字数] 欄の一番後ろでクリックして、LEN 関数の数式の後ろに文字カーソルを入れ、



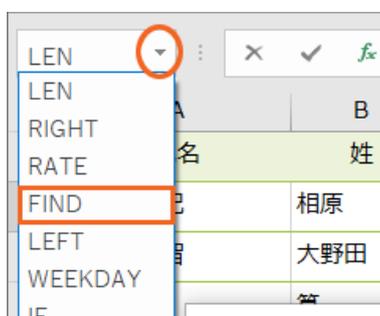
「-」（マイナス）を入力します。



これで、文字数を求める数式の、「-」（マイナス）の部分まで入力が終わったので、次はFIND関数の設定です。



[文字数] 欄に途中まで入力した数式の最後に文字カーソルがある状態で、数式バーの左端にある [▼] をクリックすると、

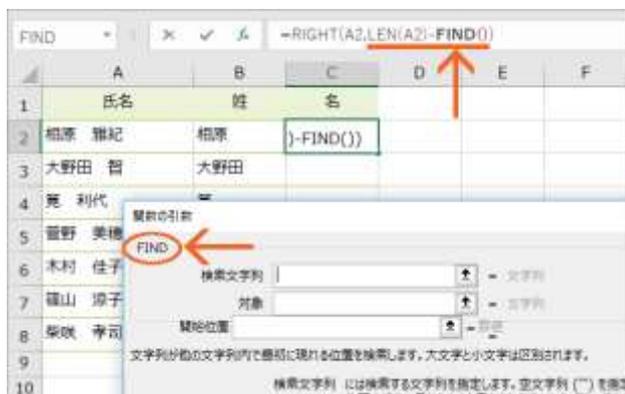


最近使った関数が一覧表示されます。

姓を取り出したときに既に FIND 関数を使っているため、この一覧に「FIND」が表示されているはず。

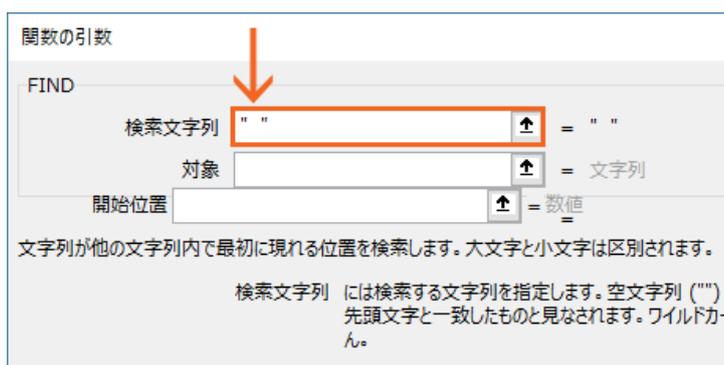
というわけで、一覧から「FIND」をクリックで選択します。

(もし、姓を取り出さずにこの処理をしている方は、一覧の中に「FIND」がないと思うので、その場合は、一覧の一番下にある「その他の関数」をクリックで選択し、次に表示されたダイアログボックスで「FIND」を選択してください。)



先ほどまで RIGHT 関数のものだったダイアログボックスが、FIND 関数のものになりました。

数式バーに表示されている数式を見ても、文字数を求めるためにここまで入力してきた、LEN 関数と「-」（マイナス）の後ろに、ちゃんとこの FIND 関数が入っていることが分かります。



それでは FIND 関数の設定を行っていきましょう。

[検索文字列] には、どの文字を探したいのかを指定します。

今回は「スペース」が何文字目にあるのかを知りたいので、スペースを入力します。

この時、探したい文字が全角のスペースなら全角で、半角のスペースなら半角で、スペースを入力します。

人間の目には全角の文字も半角の文字も似たように見えますが、Excel さんにとっては全角と半角の文字はまったく違う文字だからです。

今回は全角スペースを探したいので、全角スペースを入力します。

そしてもちろん、Excel では「数式内で「文字」を指定するときには、その前後をダブルクォーテーションで囲む」がお約束です。

スペースも「空白という文字」ですから、スペースの前後をダブルクォーテーションで囲みます。

しかも、数式内で使う記号は半角というのもお約束なので、ダブルクォーテーションは半角で入力します。

The image shows the 'Find and Replace' dialog box in Excel. The 'Find' tab is active. The 'Find what' field contains a double quote character. The 'Look in' field is set to 'A2'. The 'Start at' field is set to '3'. Below the fields, there is a note: '文字列が他の文字列内で最初に現れる位置を検索します。大文字と小文字は区別されます。' and '対象 には検索文字列を含む文字列を指定します。'

次の「対象」欄には、どのセルの中で文字を探せばいいのかを指定します。

今回は、A2 番地の中でスペースを探したいわけですから、A2 番地を指定します。

This image is identical to the previous one, but the 'Look in' field, which contains 'A2', is highlighted with a red rectangular box to indicate it is the focus of the current step.

最後の「開始位置」欄には、前の「対象」欄で指定したセルの中で、何文字目から探せばいいのかを指定するのですが、省略すると1文字目から探してくれるので、今回は省略します。

= RIGHT (A2 , LEN (A2) - FIND (" " , A2))

右端から抜き出してね A2の文字を

A2全体の文字数から、苗字とスペースを合わせた文字数を引くことで求めた、名前の文字数分

これで、最初にまとめていたとおり、RIGHT 関数、LEN 関数、FIND 関数、すべての引数の設定が終わったので、ダイアログボックス右下の [OK] ボタンをクリックします。

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原	雅紀	
3	大野田 智	大野田		
4	寛 利代	寛		
5	菅野 美穂子	菅野		

姓名から名だけを取り出すことができました！

C2 : **=RIGHT(A2,LEN(A2)-FIND(" ",A2))**

	A	B	C	D	E	F
1	氏名	姓	名			
2	相原 雅紀	相原	雅紀			
3	大野田 智	大野田				
4	寛 利代	寛				
5	菅野 美穂子	菅野				

手入力にしる、ダイアログボックスを使う方法にしる、数式を入力した C2 番地を選択すると、数式バーにその数式の内容が表示されます。

= RIGHT (A2 , LEN (A2) - FIND (" " , A2))

右端から抜き出してね A2の文字を

A2全体の文字数から、苗字とスペースを合わせた文字数を引くことで求めた、名前の文字数分

最初に考えをまとめたとおりに数式が入力できたことが分かります。

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原	雅紀	
3	大野田 智	大野田		
4	寛 利代	寛		
5	菅野 美穂子	菅野		

先頭のセルに数式を入力できたので、残りのセルにも数式を入力しましょう。

数式が入力されている C2 番地を選択した状態でオートフィルすれば、

	A	B	C	D
1	氏名	姓	名	
2	相原 雅紀	相原	雅紀	
3	大野田 智	大野田	智	
4	寛 利代	寛	利代	
5	菅野 美穂子	菅野	美穂子	
6	木村 佳子	木村	佳子	
7	篠山 涼子	篠山	涼子	
8	柴咲 幸司郎	柴咲	幸司郎	

残りのセルにも簡単に数式を入力することができました！